

2020年、国際宇宙ステーションにスタジオ開設へ、世界初の双方向ライブ番組を配信

株式会社バスキュール、スカパーJSAT株式会社及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構は、国際宇宙ステーション（ISS）にスタジオを開設し、『宇宙メディア事業』の創出に向けた活動を始動いたします。



イメージ図（提供：バスキュール/スカパーJSAT/JAXA）

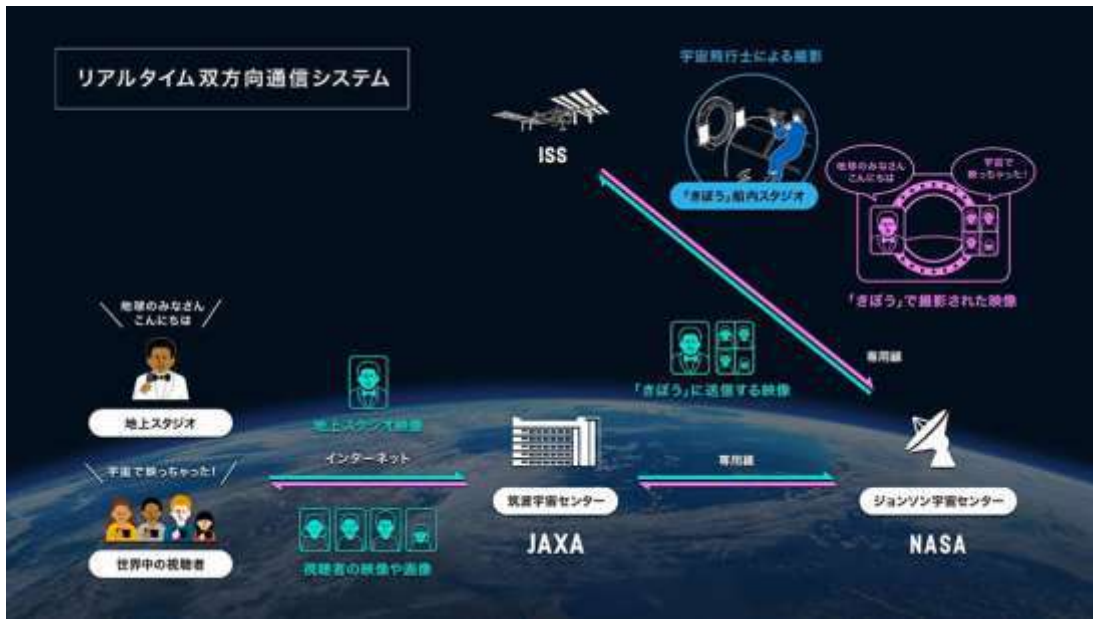
バスキュールとスカパーJSATは、地上400km上空を秒速8kmで周回するISSの日本実験棟「きぼう」を舞台に、“宇宙の民主化”を促進し、JAXAとともにメディアプラットフォームの実現に向けて検討をはじめました。

バスキュールは、2020年以降のフェーズ1において、「きぼう」船内に番組スタジオ「The Space Frontier Studio KIBO（きぼう宇宙放送局）」を開設し、国際宇宙ステーションに長期滞在する宇宙飛行士とともに、宇宙に設置されたディスプレイを介して宇宙と地上でリアルタイムにコミュニケーションが楽しめる、双方向ライブ配信の開始を予定しています。



きぼう宇宙放送局から届く番組は、スカパーJSATとともに、BSスカパー！やYouTube、SNS等で放送・配信をする予定です。国境のない地球を眺めながら、国も言語も世代も性別も違う人々が笑顔でつながりあう番組を目指し、本プロジェクトに賛同してもらえるクリエイターとともに、世界中の人々に向けたコンテンツを企画していく予定です。詳細については、以下のWebサイト (<https://iss-kibo.studio>) をご参照ください。

この取組みを実現させるため、バスキュールは、ISS日本実験棟「きぼう」の機器等を活用し、ISSと地上との通信回線制約を考慮したデータ通信プロトコル、短時間で起動可能な双方向通信専用アプリケーションを独自に開発し、2020年夏以降を目途に、世界初の対面型双方向ライブ配信システムの技術実証及び事業化着手に向けた実証を実施します。また、2021年頃を想定しているフェーズ2では、XR（AR/VR）も活用し、これまでにない映像配信を目指します。



日文新聞发布全文 [http://www.jaxa.jp/press/2019/11/20191106a\\_j.html](http://www.jaxa.jp/press/2019/11/20191106a_j.html)

文：JST 客观日本编辑部翻译整理